

フィールドクリエイターとて万能ではない

篠田 信暁

私は、手塚郁恵から最後に認定を受けたフィールドクリエイターです。

フィールドクリエイターになるにあたって、郁恵さんから色々な訓練を受けたわけではありません。ただ一つ、マイセラで自分自身に気づくということをしていただけです。自分自身に気づくとは、マイセラのフィールドで出てきた感情・感覚に、向き合っていたということです。

ベーシック1の時には、郁恵さんからいきなり「真剣にやれ」と怒られたこともあります。そのとき、「何を根拠に」と思いましたが、自分でも薄々感じていることでした。この郁恵さんから怒られたことがきっかけとして、ベーシック2では、自分が人と繋がれないということに気づきました。そして別のワークでは、「自分の居場所が実家にはどこにもなかった」というのも出てきました。

ベーシック2の最後のときのシェアで自分の番になったときのこと、郁恵さんが、ほかの人が話しているときは相槌を打ちながらしっかりと話を聞いていたのに、自分の番になると相槌を打つどころか寝てしまって全く聞いてくれず、マイセラなんか辞めてやると思いました。このときは、フィールドクリエイターにシェアのときの一部始終を話、何とかマイセラを辞めることは踏みとどまりました。

アクティブ1になってから、自分はサポーターをすることに自信がなかったので、最初の3ヶ月はサポーターをしませんでした。アクティブ1の最後のほうで、2回目のサポーターをフィールドクリエイターに見守られながらした時のこと、始まって直ぐに自分のペースを無視されて、フィールドクリエイターに横取りされた形でワークが進んでいきました。そのとき、自分の中には「フィールドクリエイターなど上に立つ立場の人は、人の気持ちを理解し完璧にこなさないといけない」と思っていました。だから、こんなことがあって、「フィールドクリエイターやからって人の気持ちを踏みにじてええんかい」と思い、今度こそマイセラを辞めてやろうと思いました。

しかし、このことを別のフィールドクリエイターに話すと、「フィールドクリエイターは導くだけでなく、自分の言うことやすることで人に気づかせることも仕事のうちである」ということを言われました。それを聞いた時、この横取りされたことから、自分が何かをするとき、親兄弟が横で見ている、自分が出来ない、「何やらしてもあかんあ」と自分

のしていることを横取りする場面を思い出し、自分の自信のなさがどこから来ているのかははっきりと分からせてもらいました。だから、この一連の出来事は、自分がサポーターとしてワークを出来るきっかけにもなりました。

色々書きましたが、何を言いたいかというと、フィールドクリエイターは万能ではなく、苦しんだり悩んだりしている人に対し、いつもいつも導いてくれるわけではないということです。真逆のことも多々あるわけです。その言われたりされたりしたことに対して、自分自身がどう感じたか、(怒りが出て辞めてやろうと思ったか、悲しくなってもう何もかもどうでもいいと思ったかなど)を掘り下げていくことが大事であるということです。

自分が嫌と思うことを言われたり、されたりするということは、もうそのことに関して感じた感情・感覚を「手放すときが来ましたよ」というサインの1つなんです。

せっかくマイセラのフィールドで出てきた感情・感覚をそのまま出さずにしまい込むのはもったいないですよ。しっかり出てきた感情・感覚にゆっくり自分のペースで向き合っ
て手放していきましょう。

自分の出てきた感情・感覚は、長い年月をかけて体の一部分となっていることが多いので、手放すときに自分の皮を剥ぐようにかなりの精神的な苦痛、痛みを伴うかもしれません。それでも逃げずに向き合うことが、自分自身を過去の呪縛から解放してくれる唯一の方法です。

万能ではないフィールドクリエイターの言動に心を揺さぶられ、感じ、手放して行ってください。

自分の人生誰のためでもなく、自分のためにあるのですから